

CONTENTS

- 木育リーダー研修会「お箸づくり」 1
- 都城木青会リクルート木育勉強会 2
- 「チョロ船づくり」地域サポーター養成講座&実践 3
- 「森の雫」地域サポーター養成講座&実践 4
- めぐみ保育園お箸作り保育者研修

木育リーダー研修会「お箸づくり」

モデル園の保育者を対象に、みやざき木育プログラム第4弾「お箸づくり」(対象:年中児~)の研修を行いました。このプログラムは、第1~3弾と違い、日常保育の中で実践する木育プログラムです。そのため、保育者自身が園児に対して指導出来る力を養うことを目的としたリーダー研修を実施しました。

日 時:令和6年6月14日(金) 9:00~16:00
場 所:ひかりの森こども園(三股町)
講 師:松井 勅尚氏(木育実践研究者・元岐阜県立森林文化アカデミー教授)
吉田 理恵氏(ぎふ木育推進員・岐阜県立森林文化アカデミー非常勤講師)
参加者:保育者8名(ひかりの森こども園、あやめ原こども園)、1期モデル園保育者2名



年少児の木育プログラムとして既に「箸置き」が完成しています。次はいよいよマイ箸づくりです。両園の保育者がペアを組み、互いに協力してお箸をそれぞれ1本作るという課題で取り組んで頂きました。

お箸の理想的な長さである一咫半(ひとあたはん)の話から始まり、お箸の歴史や産地のこと、そしてお箸の材料の適材について学びました。これらのことを知るという学びは保育者が子どもたちに教えるための背景(自信)になります。

今回、使用した樹種は、宮崎県の県木である「ヤマザクラ」です。まずは、お箸になる教材を自分にあった長さに切る「長さ決め」は、すでにノコギリの使い方を学んでいる保育者が復習の意味も含め先生方に指導して頂きながら取り組みました。紙やすりを使ってお箸を適度な太さにしていく「太さ決め」は、ひたすら4面を磨く作業です。この作業は「姿勢」が大切です。お箸づくりで最も重要な学びとなります。姿勢が悪いとお箸が曲がってしまうので、保育者の背筋が丸くならないように先生がご指導してくださいました。

今回の研修で注目したいのは1期のモデル園の保育者が研修に参加されたことです。自分たちだけで箸づくりを進めながらも、学びが薄れてきていることや、指導の場面で迷いが生じることを課題に感じ、再度学び直しをしたいという思いで参加してくださいました。

真摯に木育プログラムや子どもたちに向き合っているからこそ生まれる課題を解決するための行動力に敬意を表します。

研修の振り返りでは、1期と2期のモデル園の保育者が情報交流する場面もあり、横の繋がりが広がっていくのを感じました。

(保育者の感想) ※一部抜粋

・お箸を作る体験自体が初めてだったので、何から始めれば良いかわからなかった。体験してみて園児も難しいと思うが、園児は興味が出てくるかもしれないと思ったし、食事の時にも興味を持つきっかけになるのではないかと思う。食育にも繋がると良い。
・実際に作ってみてすごく大変で、喰い先を磨くのがとても難しかった。時々心が折れそうになり、園児も同じ経験をする思うので工夫しながら進めていきたい。

(先生のコメント)

見目好いものを作ることが重要ではなく、箸づくりをきっかけに姿勢を正すこと、食べること、山や木に興味・関心をもってもらうことが大きな目的である。宿題となった2本目の箸を自分で作りながら、日々の暮らしや考え方を振り返るきっかけにしてほしい。手は第2の脳と言われるほど脳を活性化させ発達させると言われている。ぜひ作ることを通して、そんなことにも意識を置きながら取り組んでもらいたい。今後の研修や子どもたちへの実践の中で、困ったり心配になることもあるかもしれないが、そんな時は1期のモデル園やマイスターを頼りにしながら進めていければと思う。



都城木青会リクルート木育勉強会

日 時:令和6年6月14日(金) 17:00~19:20

場 所:宮崎県北諸県農林振興局 会議室

講 師:松井 勲尚 氏(木育実践研究者、元岐阜県立森林文化アカデミー教授)

参加者:29名(都城木青会21名、県山村・木材振興課みやざきスギ活用推進室2名、北諸県農林振興局2名、都城市1名、保育者1名、みやざき木育マイスター1名、森林林業協会1名)



都城木青会で松井先生を講師に招き全国初の「リクルート木育勉強会」が行われました。木育の視点で捉え直し、森と木に関わる仕事の担い手を育てるためには林業・木材産業界が憧れられる仕事となり、誇りある仕事であることを意識することが大切だと教えて頂きました。

東会長あいさつ

木青会では、木材に興味をもってもらおうと普及活動を行っているが、この業界も人が足りていない。木材業従事者を増やすために何をすれば良いかと考えた時に、第2フェーズとして“木育”をブラッシュアップするため、今回は“リクルート木育”の勉強会を行うこととした。

リクルート木育は、今日の勉強会だけでは形にならないと思うが、少しでも形になるように全員で前向きに取り組んで欲しい。

地元高校生は他県への進学が多く、少しでも地元に残ってもらうためにこの業界の魅力は何があるのか、ここ都城地区にとっての木材業の発展の重要性はどこにあるのかを掘り起こしたい。

松井先生講演「伝統と意思を次の世代へ」(要旨)

今では木育という言葉が全国的に周知され始めてきたが、リクルート(担い手確保)のための木育の講演をするのは、今回が初めてである。

新しいことは、最低限3年はかかる覚悟が必要だ。今日の場合1つでも参考になれば幸いである。

▶“胸を張れる仕事”

東会長から、「右腕となる若者へのリクルートを」というお題をいただいた。「右腕」となってくれる仲間を見つけるには、「志」が重要である。給料も大切な要素ではあるが、経営が苦しい時にこそ支えてくれる仲間が“右腕”ではないだろうか？そういう仲間をぜひ見つけて欲しい。

自社の強み(誇れること)は意外と自分では当たり前過ぎて分からない。他者だからこそ見えることがある。木青会が「お互いの良さを認め、高め合う」そのような集まりであってほしいと願う。

▶強みと課題(弱み)について

人類の課題は気候変動である。そこに起因する森林火災は、皆さんの課題でもある。森林があってこそ生業が成立する。それを解決するのがSDGsである。

この勉強会のテーマである「リクルート(担い手確保)」は、木材産業界だけでなく森林の未来、つまり日本の課題であることは押さえておきたい。

▶木育とは？

「日本で一番長生きな、生きものは何か？」

講演や研修で必ず問いかける言葉である。

木材を同じ地球上の“生きもの”として見ていないことに気づく。木の命を頂き生業が成立していることを再認識してもらうためにこの質問をしている。

木育とは「木(森)と人の命を大切にすることを育む」「命の教育」であることを伝えてきた。“胸を張れる仕事”としてのキーワードにもなると考える。

▶「みやざき木育」は手段である。

宮崎県の森林の“4分の3”は人が植えた山である。それを循環利用するため全国で初めて『再造林推進条例』を制定することになったのだろう。それを支えているのは、林業・木材産業であり、「宮崎の森は我々が守っている。」と胸を張って欲しい。また、そのことを伝える手段として「木育」がある。

▶右腕となる若者たちは仕事に何を求めているのか

この問いについて青山林野庁長官のコメントがとても参考になる。義務教育で学ぶことの変化に注目しているのだ。

—以下林政ニュースより抜粋

「私はある時から義務教育の重要性に気付かされた。55歳以上の人は、小学2年生の時に山の木を伐り出したり、炭を焼く人々が登場したが、55歳以下の世代は林業のことを学んでいないのである。

43歳以下は5年生で「森林資源」が登場する。今の若い人たちは、自分の世代よりSDGsや生物多様性に対する感性が明らかに鋭いと感じる。」

SDGsによる“強み”の捉え直しは、リクルートにとっても重要であると考ええる。

▶SDGsからSWGsへ

Wとは well-beingのことである。個人や社会のよりよい状態のことを言う。

「個人の幸せな状態が、より良い仕事に繋がる。」

会社や木青会が、社員や会員の個人の幸せを大事にしているか？社会全体がそのような価値観に移行しており結果的に離職率を抑えることにつながるのではないと思う。これは福利厚生と捉え直すことができるだろう。以上、若者たちが、大切にしている価値が変わってきていることを認識してほしい。

▶課題(弱み)を捉え直す

K社の弱み(課題)は、高齢者が多いと書いてあったが、高齢者の知恵は凄い。それをきちんと伝えていくのが、本年度会長が掲げたテーマ「伝統と意思を継ぎ 次の世代へ」ではないか？それはSDGs4番「質の高い教育・・・」になると思う。これをどうやって次の世代に伝えていくのかを楽しみにしている。“弱み”は、皆さんの工夫次第で“強み(誇り)”へと転換できると信じている。

▶改めて、宮崎県の施策との連携を！

「第2期(R4~6)みやざき木育モデル園」は、あやめ原こども園(都城市)、ひかりの森こども園(三股町)である。今回どうして、皆さんのエリアをモデル園としたのか？を考えてほしい。伝える事の重要性など学ぶことも多く、幼少期からのリクルート木育であることを是非とも再認識してほしい。

▶外山副会長お礼の言葉

頂いた事前資料を見て、難しい質問に感じ、研修に対してもついていけないか不安を感じていた。しかし、研修を聞き、取り組み、大変身になるお話であった。日本木材青壮年団体連合会の令和5年の会合に出席してきた。日本木青連の会則にも「業界の発展・担い手育成」の言葉が出てくる。この「業界の発展・担い手育成」を達成するためにも、これからリクルート木育に取り組んでいきたい。



みやざき木育プログラム「チョロ船づくり」 地域サポーター養成講座&実践

講師：松井 勲尚 氏（木育実践研究者・元岐阜県立森林文化アカデミー教授）
吉田 理恵 氏（ぎふ木育推進員・岐阜県立森林文化アカデミー非常勤講師）
日時：令和6年7月9日（火）9:00～11:30 場所：ひかりの森こども園（三股町）
参加者：園児20名 地域サポーター20名 保育者3名
日時：令和6年7月10日（水）9:00～11:30 場所：あやめ原こども園（都城市）
参加者：園児16名 地域サポーター18名 保育者4名



地域サポーター養成講座

モデル園での木育活動をサポートして頂く地域の方を対象に、地域サポーター養成講座を開催いたしました。

今回の目的は、初めて使う道具「ノコギリ」を安全に使えるようになることです。地域サポーターの皆さんにもご理解頂きながら、道具の正しい使い方や園児の見守り（サポートの仕方）について学んで頂きました。

<振り返り>

ひかりの森こども園

- ・保護者が楽しく参加していた良かった。のこぎりを使う経験がなかったので約束事が守れるか心配していたが、扱い方も丁寧に説明して頂き、保護者のサポートの仕方も良かった。
- ・集中力も心配だったが、園児も集中して楽しめる力がついていて成長を感じるし、すごく良い刺激になる活動だった。
- ・木との触れ合いも昨年からやっている分、チョロ船を見せると食いつきがよく、作るものが木という身近な材料で達成感を感じながら遊びに繋がられる教材なので、園児にとっても良い活動だった。

あやめ原こども園

- ・小さい子供と一緒に喜んでドキドキして新鮮な空気を味わった。5月に一度しか会っていないのに覚えていてくれた。
- ・普段刃物を使わせるのがなくて、家では当然なくて今日使ってみたが、ここまで出来ることに驚いた。こういう活動はとても良いと思った。
- ・のこぎりは久しぶりだった。あんな風に持ち手とか、使い方とか親が知らないことが多くとても勉強になった。地域サポーターの方が暖かく見守っていてうれしかった。
- ・子供たちに会うと元気をもらう。一種のポケ防止かなと思う。今の日本の若者は知識が豊富。しかし、生活経験がない。小さな足元から取り組むことを教えていけないといけない。そういう生活にする経験の場を作っていただいたことに感謝したい。



保育者等振り返り

- ・いろんな表現、表情を大事にしながら活動をやっていたい。
- ・地域とのつながりは防犯の面でも非常に大事だと感じています。地域の方が多数参加して頂き、感想を聞いて改めて園は地域から見守られていると感じました。これからも地域との繋がりを大切にしていきたい。

松井先生

- ・一番楽しみなのは、園児が初めてから見ているので、成長を見ているのが楽しみである。園児だけでなく保護者の成長も実感できる。
- ・起きていることがバラバラでやっているのにスムーズに進められていたのが、空気が落ち着いていて面白い。
- ・空間の使い方も臨機応援で対応を変えていかないといけないことも良かった。
- ・今後一番大事なのは、のこぎりを自由に使えること。持ち方、立ち方、基本的なことを直していくだけでスムーズに切れるのでそこをサポートして欲しい。

吉田先生

- ・自分の役割として大事にしていたことは、保護者のみなさんへの投げかけに力を入れていたところがある。県は担い手育成ということで進めているので、意識して話をした。
- ・保護者の方が真剣にうなづきながら聞いてくださったのが印象的だった。そのあとのサポートの仕方も絶妙で、やりすぎず、手放すタイミングが良かった。

- ・私もいろんなサポーター研修をやっているが、質の高い参加者だなと思う。この活動を通して保護者のチームワークが増えてきている。保護者同士の協力、アドバイス等、そういう思いやり、分け隔てないのがどのテーブルからも見えた。
- ・ノコギリ作業で揺れて切る園児が多かったが、月齢も影響するので仕方ないが、この揺れる動きがどしと構えて切れる姿が来年はきつとあるのではないかなと思った。
- ・チョロ船の良いところは、自由に磨ける。紙やすりは表面だけと思うが、磨いて形を変えることが出来るので、日常保育で磨いていく面白さを伝えて欲しい。

みやざき木育プログラム「森の雫」 地域サポーター養成講座&実践

日 時:令和6年8月7日(水) 9:00~11:00
場 所:木花こども園(宮崎市)
講 師:緒方 由紀子 氏(みやざき木育マスター)
参加者:地域サポーター9名、年少児38名



みやざき木育マスター研修を修了した3名を派遣する、みやざき木育プログラム実施園の募集を行いました。要望があった園で初めての実践が行われました。

今回は、宮崎市の木花こども園へ県央の担当である緒方さんが実践しました。まず、地域サポーターの皆さんに、“森の雫”のプログラムの目的である、森と海のつながりについて、実際に行われている森づくりの話をしてしながら伝えました。また、その後は、実際に“森の雫”を作りながら、見守りのポイントである、姿勢や腕の動かし方について伝えました。

地域サポーター養成講座終了後、園児が待っている教室へ移動し、紙芝居『もりのしずく』を読んだ後、地域サポーターと一緒に、“森の雫”づくりを行いました。地域サポーターが園児を補助し、削っている途中では、講師の呼びかけで、材料であるスギの匂いを嗅いだり、肌ざわりを確認しながら進めていきました。

完成した後に、園の目の前にある熊野神社の杉の木と“森の雫”の材料が同じ木であることを伝え終わりました。

めぐみ保育園 お箸作り保育者研修

日 時:令和6年6月22日(土) 10:00~14:00
場 所:めぐみ保育園(宮崎市田野町)
参加者:保育者6名

今回は、年中児のお箸作り実践を行う前にお箸作りを体験したことのない保育者が園児に対して指導出来る力を養うことを目的に研修会を行いました。

作業の進め方や道具の使い方、姿勢の大切さ等を保育者同士で共有し、たくさんの工程と時間をかけて作ることで完成させた喜びや使う楽しみを胸に園児にどのように教えるか思い描きながら取り組んでいました。

令和2~4年度までみやざき木育プログラム開発のモデル園としてご協力頂いためぐみ保育園では、モデル園終了後も木育活動を継続しています。



木育ネットワーク部会とは

豊かな森林を次世代に引き継いでいくには、県民一人ひとりが、木材の良さや利用することの意義について理解と認識を深め、県民全体で県産材の地産地消に取り組むことが重要であることから、みやざき木づかい県民会議を平成25年2月に設置し、木づかい運動を進めてきました。

木づかい運動を進めるうえでは、子どもたちを中心に木に触れ親しむ機会や、森林、林業、木材、資源循環について分かりやすく伝える機会を創出する木育活動を進めることが非常に大切であることから、木育に積極的に取り組む企業・団体・行政などの参画による木育ネットワーク部会を設置しました。

■発行 宮崎県森林林業協会 ■編集 miyamokku

■事務局 みやざき木づかい県民会議 木育ネットワーク部会(宮崎県森林林業協会・宮崎県山村・木材振興課みやざきスギ活用推進室)

■住所 〒880-0802 宮崎市別府町3番1号 宮崎日赤会館2F ■TEL 0985-27-7682 ■FAX 0985-25-2398



木に触れて、
木と遊び、
木を学ぶ